

## 「きっとす」で未来にトス!



リニューアルオープンに合わせて館の愛称を募集したところ、全国からなんと750点もの作品が寄せられました。厳正な審査の結果、選ばれたのが「きっとす」です。フィンランド語で「ありがとう」を意味する「キートス」をベースに、来館者等への感謝や「木の文化を未来にトスする」などを企図しています。

長年「That's 郷土館」として親しまれたこのコラムも、今回から「That's きっとす」に衣替え。当館同様こちらも「きっと好き」に、いえいえ「もっと好き」になっていただけたら幸いです。

リニューアルしても地域博物館としての機能は、今までと同じです。

博物館の基本的機能に資料の収集があります。リニューアル休館中も、収集はしっかりと続けていました。昨年度に収集した貴重な資料の一つに名栗の建築関係の職人さんたちが拝礼していた聖徳太子が

描かれた掛軸があります。

聖徳太子は、古くから木工・建築関係の職人の守護神としても信仰されてきました。信仰されるようになった経緯などは不明ですが、俗に「法隆寺を建てたから」とか「曲尺を発明したから」等とされています。本市域でも職人集団による聖徳太子信仰が行われていたことの物証として、この掛軸は貴重な資料なのです。

今後この掛軸は、当館の大切な資料として後世に伝えられていきます。地域の文化を未来に「トス」。これも「きっとす」の大切な仕事です。(引間)